令和６年度　松田町立松田幼稚園　園だより　第12号

清流のほとり

令和７年２月３日（月）発行　園長　津田　将美　寄　松田

カラー版はＨＰで…幼稚園ＨＰのＱＲコードです↑

心は　ひとつだから

朝のきんと冷えた空気を日差しがやさしく照らしてくれた３学期スタートの日、寄の始業式を終え松田幼稚園にもどると、園庭から子どもたちの明るい声が聞こえてきました。

「園長先生、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。」

「おめでとうございます。こちらこそ、よろしくお願いします。」

さわやかな挨拶を終えると、明るい声のもとがわかりました。多くの子が、羽子板や手づくりの凧をもって、お正月遊びをしています。うまくできて笑顔。失敗してまた、笑顔。うまくいかなくても試行錯誤を繰り返しながら、失敗さえも意欲や力に変えてくれるのが伝統的な遊びの良さです。終業式にそんな話をした後、さっそく担任がそういう環境を用意してくれたようです。

いろいろな機会を逃さず、子どもたちの成長につながることはすぐに実践に移してくれる松田町立幼稚園職員の力は、本当にすごいな…と思います。（寄幼稚園でも同じような活動をしてくれていました）感謝！

始業式では２学期を振り返りながら、子どもたちが周りとの関わりを大切に、手づくりの行事や生活を創り上げてきた過程を見ていきました。撮り重ねてきた写真の子どもたちや教師は、本当にいい表情をしていました。

始業式の最後に、今年のめあて（がんばりたいこと）を聞いてみました。すると年少から年長まで、たくさんの子の手がぱっと挙がりました。これが、子どもたちの主体的な話し合いを日常から大切にしている松田幼稚園の良さだと感じています。

「幼稚園の教育活動に関するアンケート」では、保護者の皆様から貴重なご意見をたくさんいただきました。その中に、「座学の時間を多く設定してほしい」との声がありました。基本的には、帰りの会に座って考えを伝え合う時間を継続的に設定していますが、日常生活の中でも必要に応じて、集まり話し合う場面を数多く持っています。その中で、子どもたちは「座って話を聞く力」「相手を意識し伝える力」を大きくしています。子どもたちが伸びるのは、そこに話をする・聞く目的があるからです。今後もこのような活動を大切にしていきたいと思います。

さて、子どもたちの今年のめあての中に、「ひらがなが書けるようにしたい」というものがありました。年長さんは、小学校を意識する時期になってきました。

「そうだね、もうすぐ小学校だね。うれしいけど、ちょっと寂しいね。」

そう話すと、一人の子が言いました。

「寂しくないよ。みんな心はひとつだから。」

積み上げてきた経験からくる言葉です。そんな言葉を聞いて、園長は何ひとつ付け足すことはありませんでした。

年長さんが、３学期始業式の素敵なまとめをしてくれました。